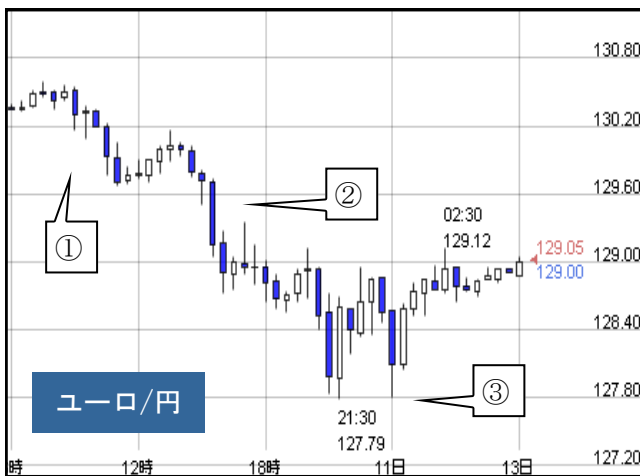


7月13日(月曜日)  
ユーロ/円  
ユーロ/ドル  
豪ドル/円

## 主要国株価の展開次第では ユーロや豪ドルには、なお下落リスク

### 10日(金)の主な推移



※チャートは、30分足で表示しております。  
(10日(金)朝6時～11日(土)朝6時)  
※時間につきましては、日本時間での表示です。  
出所:外為どっとコム

- ① 高く寄り付いた日経平均株価が下げに転じたほか、NYダウ先物もマイナス圏で推移していることなどをを受けて、昨日の海外市場での上昇の反動からリスクポジション解消目的の売りが出やすく、ユーロ/円、豪ドル/円は下落した。
- ② シュタインブリュック独財務相が「ドイツ連銀は必要ならば社債を購入するだろう」とコメントしたことや、原油先物相場や時間外のNYダウ先物の下落もあって、ユーロは円やドルに対して下落した。
- ③ 米ミシガン大消費者信頼感指数が3月以来の水準に低下したことや、原油先物相場の軟調推移を受けて米株式市場が下落基調を強めると、ユーロや豪ドルが売られ、米ドルや円が買い戻された。

## ユーロ/ドル、ユーロ/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きからドル売り、高金利通貨買いの流れ(ユーロ上昇要因)
- ・主要新興国(BRICs)を中心にドル離れに動くとの観測(ユーロ上昇要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きからドル、円の買い戻しの流れ(ユーロ下落要因)
- ・ユーロ圏の銀行の不良債権に絡む損失処理問題(ユーロ下落要因)

## 豪ドル/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きから高金利通貨買いの流れ(豪ドル上昇要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きから米ドル、円の買い戻しの流れ(豪ドル下落要因)
- ・株価、資源価格の調整的な下落(豪ドル下落要因)

## 本日の見通し

## 本日の予想レンジ

ユーロ/ドル: 1.3870-1.4070ドル  
ユーロ/円 : 127.80-130.80円

本日も、株価動向をにらみながらの展開が予想される。その株価動向も、明日以降本格化する米主要企業の第2・四半期決算発表の本格化を前に手控えムードが予想されている。ユーロ/円、ユーロ/ドル相場も、様子見姿勢が強まりそうだが、7月に入り、米雇用統計の悪化以降、世界経済の回復期待が後退している中では、株価も調整局面に入ったとの見方が強く、ユーロ/円、ユーロ/ドルも下落方向へのリスクを想定せざるを得ない。

昨日の東京都議選の結果も、政局混迷から株安材料となれば、円買いにつながる可能性もあるが、本日早朝の取引を見る限りではその影響は限定的であろう。

## 本日の予想レンジ

豪ドル/円: 70.50-73.00円

資源国通貨の代表格である豪ドルは、原油先物価格の下落と連動する形で下落基調となっている。米当局による、商品市場の投機的取引に対する規制措置検討や世界的な経済回復期待の後退から、原油先物市場は急反発は望めそうにない。

株式市場もなお調整局面にあるとすれば、豪ドル/円相場も目先は下落圧力が強いものとする。心理的抵抗線の70円が視野に入ってきており、ここを割り込むようだと、下落基調をさらに強める可能性がある。

## 本日の注目イベント

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
7/13(月)	13:30		(日)5月鉱工業生産・確報(前月比)	+5.9%	--
7/14(火)	3:00		(米)6月月次財政収支	-775億ドル	-335億ドル

※時間はいずれも、日本時間で表示しており※注目度は高い順に、◎、○と表示しております。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総研ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。